

《道路空間整備の方向性（案）》

①基本方針

現状の問題点の改善と古町地区の魅力向上・賑わい強化に向けて、道路の役割分担を明確にし、限られた道路空間を有効に活用する。

《古町地区の将来像》～交通戦略プランより～

■交通まちづくりの方向性：まちの賑わいや都市の活力を創出

- 誰もが快適に移動しやすい交通環境の実現
 - ・公共交通サービスを基軸に、回遊性の高い「歩いて楽しいまちなか」を創造（基幹公共交通軸の形成等）
 - ・歩行者や自転車が安全で快適に移動できる交通環境の創出
 - ・まちのにぎわい・憩いの空間を創出 等

《まちやみちづくりに関する住民意向》

■まちやみちのイメージ

- ・賑わいがあり、安全で安心して暮らせるまちづくり
- ・歩行者・自転車・自動車の共存

■道路空間再構築について重視すべき事項

- ・安全な歩行者・自転車空間（古町地区全体）
- ・賑わいが生まれる空間（中古町）



《道路空間再構築の基本方針》

ア. 道路空間の役割分担の明確化

- ・自動車交通、自転車交通を集約的に処理する骨格機能の確保
- ・基幹公共交通軸としての榎谷小路の機能強化

イ. 各エリアにおける道路空間活用方針

●各エリア共通

- ・歩行者・自転車の安全性向上

●上古町エリア

- ・荷捌き等の路上駐車への対応

●中古町エリア

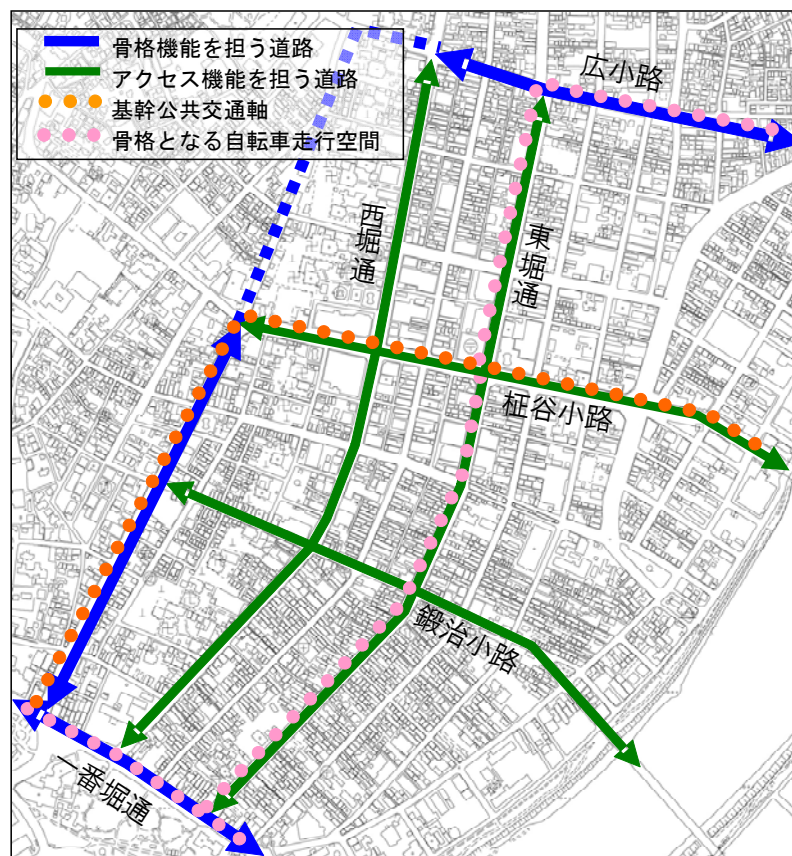
- ・利便性の高い公共交通の実現
- ・快適な歩行者の回遊空間の創出、荷捌きやタクシーなどの駐停車に対応した道路空間の活用

●下古町エリア

- ・荷捌き等の路上駐車への対応、夜間における客待ちタクシーへの対応

②骨格機能を担う道路の位置づけ

現況の自動車及び歩行者・自転車交通量、将来交通体系における位置づけを踏まえ、骨格機能を担う道路を以下のように位置づける。



※ 古町地区を通過する交通やアクセスする交通を万代島ルートに誘導する

※ 西堀通りは、より多様な機能確保が望まれることや、西堀通りの将来的な位置づけや万代島ルートとのネットワーク化を勘案し、西堀通りと東堀通りの役割分担を図ることとする

※ 将来的に基幹公共交通軸の走行空間機能を担う道路の位置づけも考慮する必要がある

③道路空間再整備の方向性

●古町中心部

- ・快適な歩行空間の創出による賑わい強化や魅力向上に資する道路空間の活用を第一義とする
- ・現状の問題点の改善とともに、多様な活動に対応するため西堀通り、東堀通りおよび榎谷小路を有効に活用する

【東堀通り】

- ・車道の削減による骨格となる自転車走行空間確保、荷捌き・タクシーなどの駐停車空間の適切な確保、車道の削減に併せた駐輪スペースの確保 等

【西堀通り】

- ・自転車の適切な利用誘導による歩道における自転車、歩行者の安全性向上
- ・ポケットスペースを活用した荷捌き・タクシーなどの駐停車空間確保 等

【榎谷小路】

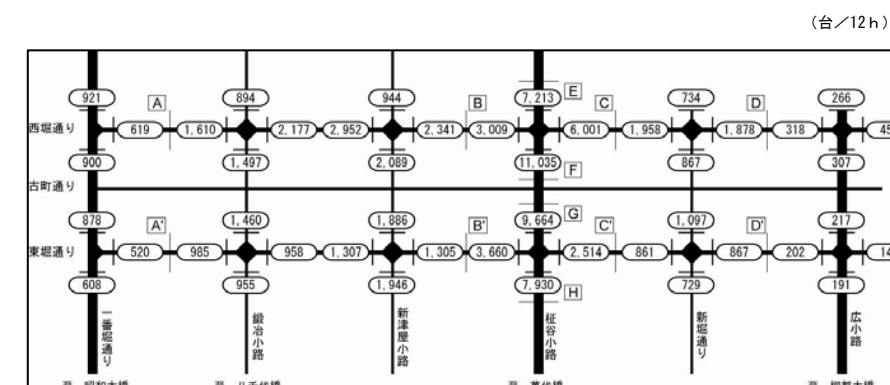
- ・基幹公共交通軸の形成による公共交通の利便性向上、快適で賑わいのある歩行者空間の確保 等

【本町通り、古町通り】

- ・荷捌き利用のルール化と、路上駐輪の削減による快適な歩行空間の確保
- ・古町地区における一体となった荷捌き対策 等

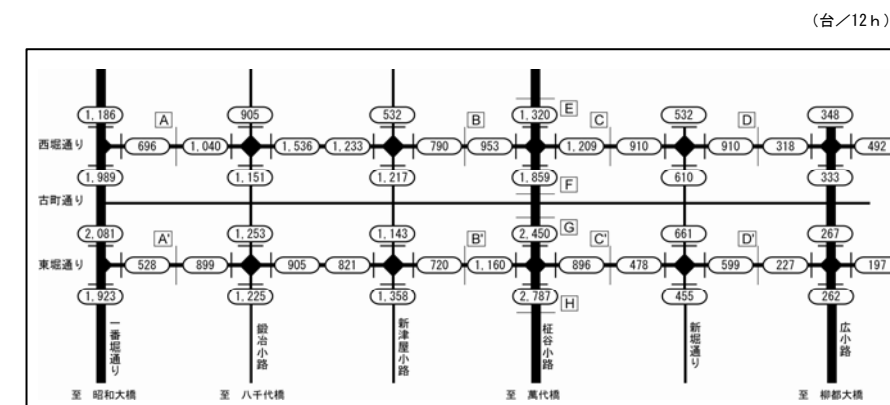
歩行者断面交通量

・全体的に西堀通りで歩行者交通量が多く、榎谷小路に次いで人通りが多い。特に、西堀通りの榎谷小路～新堀通り間の歩行者交通量が約6千人/12hと多く、榎谷小路に近い交通量である。

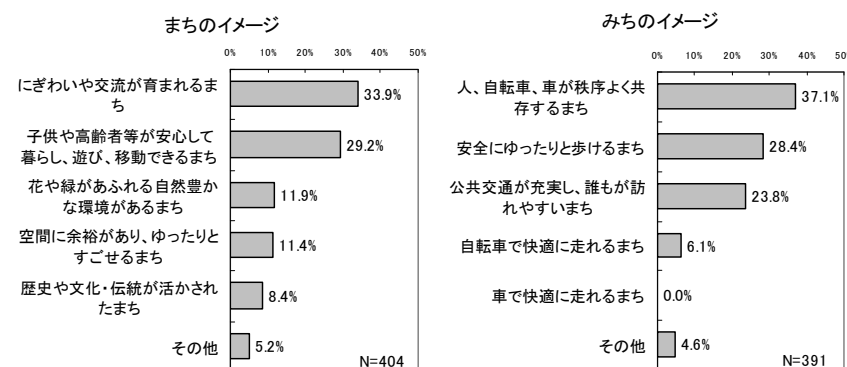


自転車断面交通量

・榎谷小路及び一番堀通りに置ける自転車交通量が比較的多い。
・西堀通りでは東堀通りに比べ、自転車交通量が多い。一方で歩行者交通量も多いため、歩行者と錯綜する可能性が高い。



古町地区将来のまちやみちのイメージについて



道路空間再構築において重視すべき事項

・各エリアともに安全な歩行者・自転車空間の創出が最も重視されている。
・古町中心部では、にぎわいが生まれる空間づくりも重視されている。

